

株式市場新聞

1 第375号

日経平均株価

3万9910円82銭

▲744円63銭(前日比)

TOPIX

2709.42

▲33.69(前日比)

www.marketpress.jp

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904

2024

3/4

月曜日



日本代表する企業に成長

グロース市場のAI関連銘柄

生成AI向けの高性能半導体の拡大を武器に驚異的な好決算を発表しエヌビディアの株価が急騰、これを受けて東京市場では東京エレクトロン(8035)を筆頭に半導体製造装置大手が主導する形で日経平均は34年ぶりに過去最高値を更新した。高性能半導体の普及でAIの進化が更に進めば、実際にAIをビジネスに利用する企業の存在感が増す。グロース市場でも急騰するAI関連銘柄が増えており、半導体製造装置大手と共に関心を集めよう。

高性能半導体普及で進化

を代表する企業に成長

半導体の高性能化の数年でAIの進化が進んだお陰で、これも劇的に進んでおり、

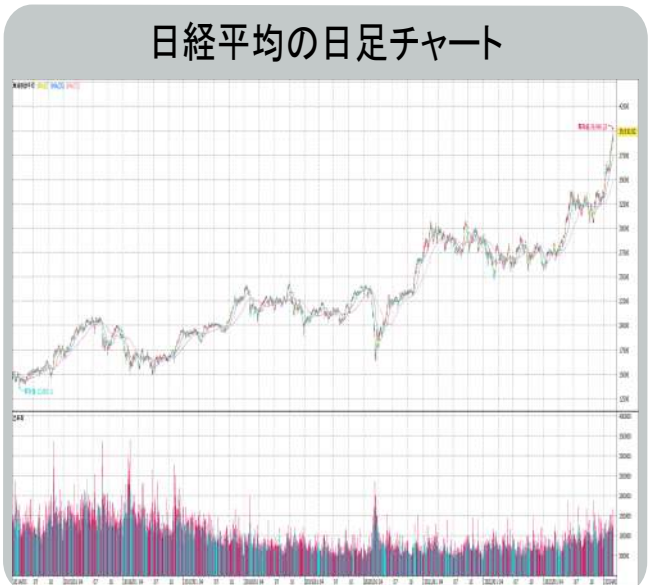
長する可能性もありそう。



AIビジネスが急速に進化する

東京市場でもこのAIをビジネスに活用する企業が続々と上場してきた。AIはこの先、劇的な進化が見込まれる中で、このAIを先駆けてビジネスとして取り入れた企業は数年後に日本

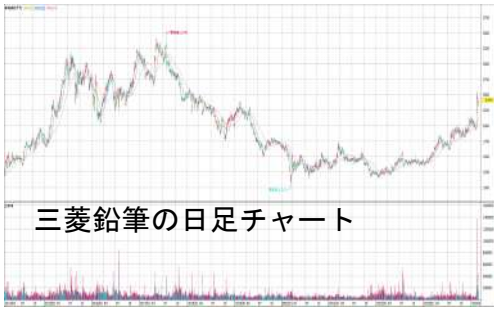
AI Inside(4488)はAI技術を用いた光学式文字読み取り装置(OCR)サービスを提供、生成AIエージェント「Heylix」の正式版を昨年10月にリリースしたことで更なる契約増が期待される。HEROZ(4382)は将棋AIの開発を通じて技術を



日経平均の日足チャート

蓄積、法人向けAI SaaSなどにビジネスを拡げる。Laboro AI(5586)は顧客のニーズに合わせたオーダーメイドAIを開発、画一的なパッケージAIでは対応が難しい、ビジネス現場特有の複雑

な課題の解決に貢献している。VRAIN Solution(135A)は今年2月22日に東証グロース市場に上場、製造業に特化したAIソリューション「Phoenix Vision」を手がける。TDSE(7046)はAIを中心とした統合型ソリューション企業で、DX推進、データ活用テーマの抽出、データ分析などAIを活用した提案を行う。



2月20日、倉元製作所(5216)が続騰、ストップ高まで買われた。24年12月期は連結営業利益で7000万円と前期の4億7000万円赤字から一転して黒字転換を見込むことから、100円前後の株価には値ごろ感からの買いが入ったようだ。新たな市場開拓を通して受注の安定・拡大

三菱鉛筆4連騰で新値 中期経営計画を上方修正

週明け19日、三菱鉛筆(7976)が大幅に4日続伸、年初来高値を更新した。同日の取引終了後、中期経営計画2024年12

2月第4週の動意銘柄

スノーピーク非公開化報道

スノーピーク(7816)がストップ高。18日の日本経済新聞で「アウトドア用品大手のスノーピークがMBO(経

営陣が参加する買収)によって株式を非公開化する方針を固めた」と報じたこととが材料視された。「米投資ファンドのベインキャピタルと組みTOB(株式公開買い付け)を実施する」としており、アウトドア用品の需要が一巡し、業績が落ち込んでいることから非公開化で構造改革を急ぐという。

倉元は一転営業黒字へ

20日、倉元製作所(5216)が続騰、ストップ高まで買われた。24年12月期は

平和堂は減額と売出し

平和堂(8276)が大幅反落。能登半島地震による被害を受け特別損失を計上すること、24年2月

期通期の連結最終利益予想を83億円から67億円(前期比10.9%減)へ下方修正、270万6200株の売り出しと上限

アルデプロ監視銘柄

アルデプロ(8925)が継続急落、下落率は30%に迫った。同社は16日の取引終了後、東証が監視銘柄(審査中)に指定したと発表したことが嫌気された。3月上旬に公表を予定していた改善計画・状況報告書の策定・公表を断念することを発表している。

第一商品3Q黒字転換

40万5800株のオーバーアロットメントによる売り出しを発表した。併せて1.91%の自社株買いと株主優待制度拡充を発表したが、反応は限られた。

第一商品(8746)がストップ高。24年3月期第3四半期は最終損益4億300万円の黒字(前年同期1億1200万円の赤字)に転換し

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は大幅に5週連続しました。日経平均は前の週から812円上昇、2週連続で史上最高値を更新しています。29日にインフレ指標として重要視されている米1月の個人消費支出(PCE)価格指数発表を控え、木曜日までは方向なく小動きに推移しましたが、動きに推移し、0円を割り込むと買いた。そのPCEは伸びが鈍り、イが後退したことで、週時800円超に上げ幅をを広げ、4万円4万円も通過週末の米国株市が連日で最高値を更新したことから、週明けも上値追いでに半導体関連の中核銘柄には仕込みを入れましたので、物色の広がりを確認しながらAI関連のグロース株の買い場を探りたい考えです。花咲翁



くふうカンパニーS高

21日、くふうカンパニー(4376)がストップ高。自己株式取得枠の設定を

発表。上限300万株(発行済株式総数に対する割合4.8%)、または20億円で、取得期間は2月21日から8月14日。割安な水準で推移している株価動向と財務状況を総合的に勘案し、機動的な資本戦略に備える。

メディアLストップ高

KDDI IPゲートウェイ採用

21日、メディアリンクス(6659)がストップ高。KDDI(9433)が提供する映像伝送サービスにIPゲートウェイ「Xscend」が採用されたこと、Xscendだけでなく、アグリゲーションスイッチや機器管理ソフトウェアも提供、ネットワークシステムの構築を

全面的にサポートするとしている。

enish発行株式数倍増

enish(3667)が急落。定款の一部変更を行うと発表されたことが嫌気された。発行することが出来る株式の総数を2400万株から4800万株とするもので、将来的な需給悪化懸念が台頭した。



は映像伝送サービスネットワークで同社製品を使用したWDM伝送方式に加えて、IP方式による伝送も計画しており、最新の映像圧縮方式や

八洲電機上方修正と優待

連休前22日、八洲電機(3153)が一段高。同社は21日の取引終了後、24年3月期の業績予想の上方修正を発表、連結売上高で620億円から640億円(前期比6.2%増)へ、営業利益で34億円から37億円(同32.4%増)へ上方修正した。プラント事業を中心として引

き続き好調に推移している。同時に「全国共通お食事券/東日本復興支援ジェフグルメカード」を贈呈する特別株主優待の実施を発表した。

公開価格74%上回る

VRAINの初値 VRAIN(135A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格2990円を73.58%上回る5190円で初値が生まれた。同社は製造業向けAIソリューションの提供を行う。

松井証券

今こそ始めるデイトレード
松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引
コスト

プレミアム
空売り

独自
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのパナーをクリック

半導体関連軒並み高

エヌビディア予想上回る好決算

22日、アドバンテスト(6857)、東京エレクトロン(8035)、レジーザート(9206)、デイスコ(6146)、RESC(6146)、ホールディングス(7735)をはじめ半導体関連銘柄が軒並み高。前日に米画像処理半導体大手のエヌビディアが発表した決算は、第4四半期売上高が22億1060万ドル、予想の20億6000万ドルを上回り、第1四半期見通しも24億ドルとコンセンサスの22億ドルを上回った。決算発表後の出尽くしへの懸念が強いなか、高い期待値をさらに上回る好決算がポジティブサプライズになり、時間外取引で株価が急騰した流れを受け関連銘柄に買いが広がった。

グリー(3632)が急落。海外売出しを行うと発表したことで需給悪化懸念が台頭、売出し価格の484円にサヤ寄せする動きになった。売り出し人はKDDI(9433)で保有する全株式800万株を売り出す。海外投資家層の拡大を軸とする株主構成の最適化と株式流動性の向上が目的。

日経平均4万円に接近も

先週の東京株式市場は5週続伸となりました。年初からの上昇が止まりません。先週末には日経平均が4万円にあと10円まで接近しました。昨年末からは6526円上昇し、上昇率は19.5%に達しました。

恐らく乗り遅れた投資家が毎日ニュースで日経平均最高値更新という報道を見て、居ても立ってもいられず買い出したことと、投資経験の長い投資家が、急ピッチの上げに対し過熱しているからと空売りを仕掛けるも、一向に下げないことで買戻しを迫られているということでしょう。

こんな時ほど冷静に相場を見なければなりません。筆者は焦ることもなく利益確定に向かうべきだと考えています。そして下があればその時に買えば良し、更には上値を追うのならば物色の流れの変化を読みながらそれなりに対処していけば良いと思う次第です。焦ることはありません。

日々勇太郎



enish新タイトル配信へ

enish(3667)がストップ高。現在他社と連携をして開発中のモバイルゲームとしてプロダクション技術を活用した「デイルイズ」ラストメモリーズ」と全世界で提供しているゲームプラットフォーム「Roblox」向けの『ドラ

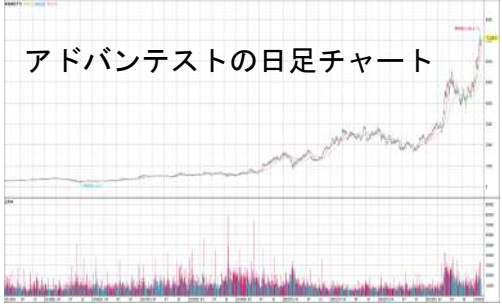
えもん』のアクションレースゲーム「ドラえもん のび太のゴーゴーライド！」を24年4月に配信開始予定と発表した。ウエルシア、ツルハ統合検討
ウエルシアホールディングス(3141)とツルハホールディングス(3391)が値を飛ばした。

2月第5週の動意銘柄

「経営統合を検討していることが分かった」と報じられた。ウエルシアの親会社で、ツルハ株の約1割を保有するイオン(8267)はツルハに出資する投資ファンドからの株式取得を交渉中で、ウエルシア、経営統合を検討している公表。
ピアズAIロープレ研修試験
ピアズ(7066)がストップ高。マイ

クロアド(9553)がマーケットイング支援サービスの営業トレーニングへAIロープレ研修「mimik」を試験的に導入すると発表したことが引き続き材料視された。BtoB営業関連市場は広大で、試験導入結果を踏まえ、機能をブラッシュアップすることで大きくターゲット市場を拡大することが可能としている。

AppBank新役員で思惑
Bank(6177)がストップ高。27日、App同社は26日の取引終了後、3月29日開催予定の第12回臨時株主総会において付議する取締役の候補者を発表したこと材料視された。ソニー(6758)出身でソニーの元会長である出井伸之氏が設立したクオンタムリープ社の中村智広氏が新任候補者となっており、思惑買いを誘っている。



日立造船が急伸

半導体向け全固体電池受注

27日、日立造船(7004)が急伸。日本経済新聞で「半導体製造装置に組み込む全固体電池を初めて受注した」と報

じたことが材料視された。「日立造船の全固体電池は真空状態で使える。電池の活用で半導体製造の一部工程が短縮でき、生産にかかる期間やコストが削減で

明和産業株式売り出し

3)が急落。同社は26日の取引終了後、株式の売り出しを発表したことで需給悪化懸念が台頭した。売り出し株式数は507万8000株で三菱商事(8058)などが売り出す。

企業レター

ハリマ化成グループ(410)

研究員は、日本ゴム協会関西支部主催の第4回若手発表交流会で「最優秀発表賞」を受賞した。

今回受賞した発表は「高極性ロジンによる新規tanδピークの発現とそのメカニズム」で、再生可能資源の松から得られるロジン(松やに)の変性技術を活かしたゴム用添加剤の開発を行うなか、極性の異なる2種類のロジン(高極性ロジン、低極性ロジン)のゴム物性への影響について検討した。結果は高極性ロジンを添加した場合のみ、ゴム由来のtanδ(損

DNAはポケモンゲーム

発している」と発表されたことが好感された。世界中で楽しまれて

28日、デイ・エヌ・エー(2432)がストップ高。任天堂(7974)の持分法適用会社ポケモンとスマートフォン向けポケモンカードゲーム「Pokémon Trading Card Game Pocket」を共同開

マルヨシ権利落ち

マルヨシセンター(7515)が急落。(7515)がこの日は2月の権利落ち日で、手じまい売りに値を崩した。24年2期の期末一括配当30円に加え、毎年期末を基準日に株主優待券とギフトカードを贈呈する優待も実施している。権利落ち銘柄では北雄ラッキー(2747)やイオン九州(2

公開価格の2.2倍

Coccoliveの初値(137A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格1780円の2.2倍となる3990円で初値が生まれた。不動産業界向けマーケティングオートメーションツール「KASIN

久世は大幅増配

久世(2708)が一段高。24年3月期の期末一括配当予想を12円から15円へ引き上げ、特別配当27円を加えた42円(前期12円)へ大幅に増配することが材料視された。

アルプス物売却検討報道

29日、アルプス物流(9055)がストップ高買い気配。46.7%の株式を所有する親会社のアルプスアルパイン(6770)が保有全株式の売却手続きを進めていると伝わった。

上など、プレミアムを期待した買いを集めた。

公開価格の2.2倍

1月には一次入札が実施されており、取得先企業による一段の株式買い増しやプライベートエクイティファンドなどによる株式取得による収益改善、企業価値向

光フイードの初値

前日に東証グロース市場に新規上場した光フイードサービス(138A)は公開価格2660円の2.2倍となる5850円で初値が生まれた。同社は立呑み居酒屋を中心とした飲食店を展開している。

ソフトバンクG1万円目標

英国子会社のアームは

東京市場はエヌビディア決算発表後の上場来高値更新後に若干調整していましたが、再び一段高です。2月29日発表の1月米個人消費支出（PCE）物価指数はほぼ予想通りで、インフレが収まる動きが続いていることが明らかになり、米国株高から3月1日には日経平均が4万円に迫りました。

米国に上場後、大きく水準をあげ、170ドル台です。上昇した際に30ドル台でしたので、5倍を以上になったことを考えてもソフトバンクGの出遅れは明らかでしょう。3月に入り走ることになりそうです。内需系も今後、日銀によるマイナス金利解除などで円高に向かうことを考えると無視できません。JR西日本（9021）もゾリ高で6500円台を回復しそうです。また、大手証券の野村ホールディングス（8604）も上値を追いましょう。もちろん、オンライン証券大手のSBIホールディングス（8473）も水準訂正に進むことになりそうです。更に、東京海上ホールディングス（8766）も動きが緩慢でしたが、更に、上値を窺う展開になりそうです。

高野恭壽の株式情報 これでどや!!



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

AI関連銘柄は1万円以上に買われ、同じ社株がまだ1万円に乗せて

も動きが緩慢でしたが、更に、上値を窺う展開になりそうです。

内需も無視できない

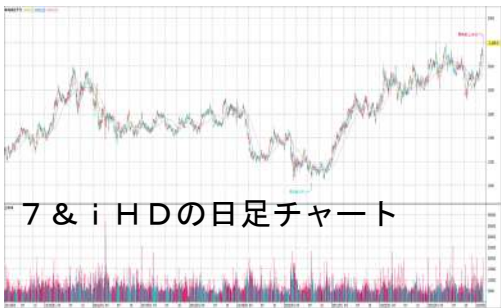
全般相場を牽引しているAI関連の中ではソフトバンクグループ（9984）を一貫して勧め、2月29日に8700円台まで下落していましたが、3月1日には一気に9000円に乗せる場面がありました。ほかのAI関連銘柄は1万円以上に買われ、同じ社株がまだ1万円に乗せて

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ <https://marketpress.jp/kabu-takano/>

7&iHD実質最高値

イトーヨーカ堂売却報道

が強く、事業構造改



29日、セブン&アイ・ホールディングス（3382）が大幅高で株式分割を考慮した実質最高値を更新した。一部報道で「セブン&アイが傘下の百貨店それぞれ・西武に続いて創業であるイトーヨーカ堂についても売却を含めた抜本的な改革の検討を始めていることがわかった」と伝わった。イトーヨーカ堂の資産がROA向上の足かせになっているとの見方

加地テック利益上振れ

の、採算改善が利益を押し上げた。

ラクーンHD大幅減額

ラクーンホールディングス（3031）が大幅継続。24年4月期の業績予想の修正を発表、連結売上高で62億4000万円から58億5000万円に引き下げた。

革進展への期待から買いが向かった。会社側は「報道の掲載内容の事実は全くない」とコメントを発表した。

日システム技分割増配

日本システム技術（4323）が急伸。3月31日を基準日として1対2の株式分割を行うと発表された。同時に24年3月期の期末一括配当を40円から45円へ引き上げた。

壮大な上昇相場始まる

バリュウー銘柄全般に妙味

34年ぶりに日経平均株価が歴史的な高値を更新した。半導体関連株の寄与率が高いとは言え、長期スパンで見た日本経済や企業統治の構造的な変化への期待が背景だと捉えるべきだろう。

世界的にエクイティー市況が好調だが、その中でも日本株のパフォーマンスは際立っている。昨年来続く外国人買いがさらに広範囲で加速している印象だ。デフレからの脱却がこれほど現実味を帯びたのは少なくともリーマンショック後は初めてで、従来の投資尺度では測りきれない新しい相場がスタートしたとの時代認識である。

米国では、長期金利が現在も底堅い景気動向とインフレ懸念から4%台の高水準にあり、株価の割高感を取り沙汰された。S&P500の予想PER

Rから算出されるイーロドスプレッド(10年債利回りー益回り(1/PER))は、一昨年の利上げ開始まで長年続いたマイナス3%台水準から直近ではマイナス0.5%近辺まで上昇している。

リーマンショック以降最も高い水準にあり、さらなる上振れには要注意だろう。

一方、日本株を同じ視点で見ると株価は割安で上値余地が相当大きいものとなる。デフレの超低金利下ではイーロドスプレッドによる債券との比較はほぼ無意味であった。ただ、

今や時代は転換点を迎えており見直しが必要だろう。先の最高値をつけた1989年12月時点の10年債利回りは5.7%、日経平

均のPERは62倍台(益回り1.6%)、差し引きのイーロドスプレッドは4.1%だった。

同じ日経平均でも現在の10年債利回りは0.7%、日経平均予想PERは16.56(益回り6%)、イーロドスプレッドはマイナス5.3%である。当時とは較べるまでもない低水準だ。金利との関係では、潜在成長率の差を考慮しても米国株より明らかに割安である。金融の正常化への道のりには同時に株式価値の正常化を伴うと考える。最高値の更新を受け、先が「熱狂したバブル」で今回は「冷めたバブル」などと揶揄するのは間違いだらう。バブルには程遠く、ようやくスタート台に立ったところとの認識だ。

アベノミクス以降の日経平均PERは13〜18倍のレンジで推移し平均では15.5倍である。来年あたりまでPERのレンジは脱デフレの定着で少なくとも2割程度(16〜22倍まで)底上げされると見ている。来期の企業業績がコンセンサス通り10%程度の増益なら、このモメンタムはより現実味を帯びるだろう。

加えて、あまり意識しにくいのが、株価上昇そのものが資産効果を通じて实体经济に好影響を及ぼす状況も考えられる。EPSで+5%程度の押し上げ効果が想定される。合計すると30〜40%の株価上昇となる計算だ。日経平均では5万円台が視野に入る。年央に一旦大幅な調整を予測する向きがあるが、仮にそうしたケースでも壮大な上昇相場は始まったばかりで長期上昇基調は変わらないだろう。

出遅れている中小型を含むバリュウー銘柄全般に妙味がある。個別には三菱UFJ(8306)、野村HD(8604)、ソフトバンクG(9984)など。



光世証券

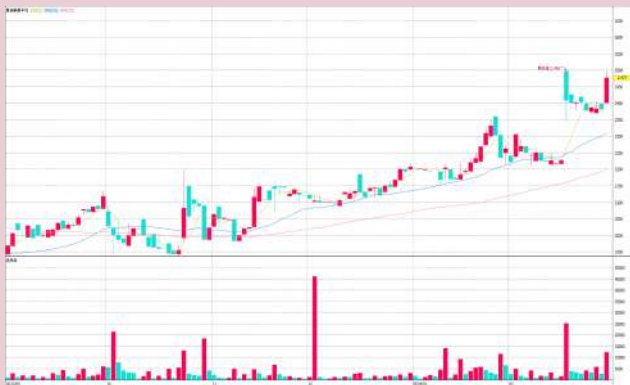
取締役 西川 雅博 氏

相場展望



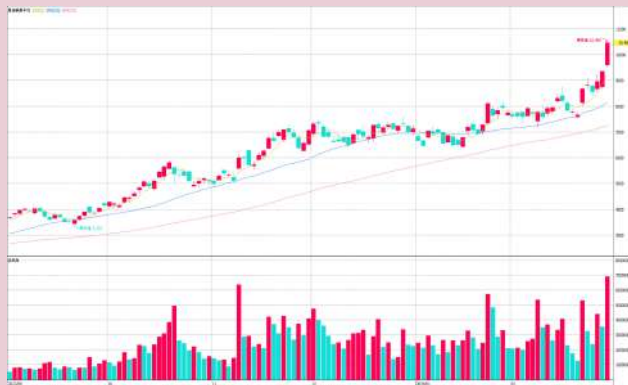
チャートから読む 騰落銘柄

ヤマシタヘルス (9265)



13万3000株を上限とする自社株買い発表後に2月19日に2498円の高値更新。その後は調整も3月1日は急速に戻す。投資会社CARPEDIEMの存在も思惑継続で週明けは高値抜け期待。

TOWA (6315)



大勢上昇トレンドのなか、7600円絡みでの高値保ち合いを上放れ、一気に5ケタ大台乗せ。生成AI向け半導体モールドング装置へ期待高まる。信用買い残減少の一方売り残増え、噴き値局面近い。

吉野家HD (9861)



24年2月期予想上方修正と増配発表も上値重い。昨年12月18日安値近辺である3000円台を維持できなければ昨年10月4日安値2765円を試す可能性も。下値回避には25日線までの回復が必要。

富士通ゼネラル (6755)



海外市況回復の遅れによる通期大幅減額を嫌気、下値模索が続き2000円大台を割り込む。押し目買いに積み上がった信用買い残が重荷で一段安を警戒。当面、20年安値1505円まで下値のフシはない。

星野三太郎の株街往来

～静かなる過去最高値～

は株式関連のニュースを扱わないテレビ番組でも証券会社や店頭前の株価ボードを眺める人にインタビューして、株高を特集していた。もう数十年以上前に取材した証券会社の調査部長の方が元気にコメントしていたのを見て懐かしく感じたのだが、一方で電話で応対する証券マンの姿が映し出されたのを見て、今やスマホでのトレード全盛の時代でも、電話注文するような高齢者が株高を支えているかもと勝手に判断してしまった。

北浜界隈の証券会社の多くが姿を消して、事務所近隣に唯一、存在していた証券会社も合併で看板が変わっていた。

筆者の周囲でも株式より仮想通貨やFXを好む若者が大半。それ故に外人主導の株高には少し違和感も感じる。



日経平

均様が1989年12月末に付けた過去最高値3万8915円87銭を更新した。この欄を執筆している23日の日経平均の祝日取引では3万9480円を付けているので、この勢いで行けば4万円到達も早い段階で達成するかも知れない。

過去最高値を更新したということ、普段



New product

松屋フーズ 豚肉の甘み・旨みしっかり
新感覚のポークフライドステーキ



オニオンバターソースのポークフライドステーキ定食

松屋フーズホールディングス(9887)はとんかつ専門店の「松のや」において、「オニオンバターソースのポークフライドステーキ定食」の発売を開始した。

熟成チルドポークにまぶし粉をつけて素揚げしたもので、一口食べればその柔らかさは想像以上。厚さもあり食べ応えのある柔らかさで、豚肉の甘み・旨みをしっかり味わうことができる新感覚のステーキ。味の決め手は「オニオンバターソース」。にんにくのガツンと風味に玉ねぎの甘さが効いたオニオンソースにバターの香りが加わり、ポークフライドステーキとのマリアージュが楽しめる。税込み価格はシングルが930円でダブルが1500円。

テクニカルノベルティー受賞

クボタ

自走式自律スプレイヤー



コンセプトモデル「KFAST」

と共同開発した。 Kubota Award 2024 の「Tech Award」を受賞した。

クボタ(6326)のグループ会社であるFedex社が、スペインで開催された国際農業機械見本市「FIMA」において、

発を進める自走式自律スプレイヤーのコンセプトモデル「KFAST」が、農園での作業生産性を大幅に向上させるとともに、環境負荷の低減と持続的な成長をめざす欧州での取り組みに合致した点などが高く評価されたもの。KFASTには、センシングカメラとAIで構成されるAIS(アイリス)というシステムが搭載。AISが樹木の位置と形を検知し、収集したデータをもとにスプレイヤーからの農薬散布量をリアルタイムで最適化することで農薬使用量を削減し、環境負荷を低減することができ

企業レター

潮流

グロース株に資金向かう

プライム市場との好循環は続く

marKet / bAnk



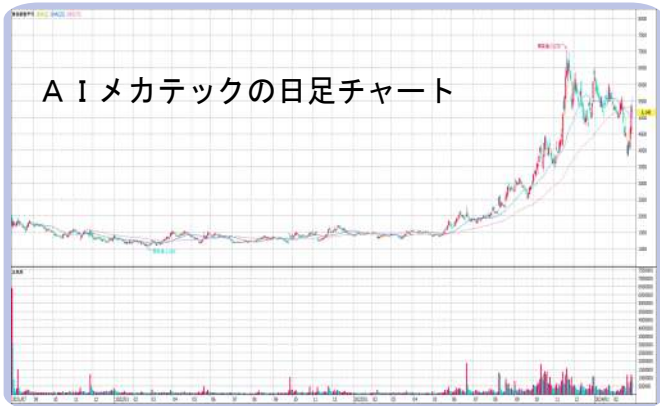
2月27日に日経平均は一時、3万9426円まで上昇し、34年ぶりに史上最高値を更新した。米半導体大手エヌビディアの好決算をきっかけに人工知能（AI）・半導体関連株が牽引する世界株高が続いている。一握りの銘柄へのマネー集中は世界的に広がり、警戒感も出ている。

エヌビディアの時価総額は一時2兆ドル（約300兆円）を上回った。1兆ドルの大台に乗ってから2兆ドルまでは8カ月程度。米アップルや米マイクロソフトは2年程度かかっており、「最速」での2兆ドルクラブ入りとなった。

バリュー（割安）株投資で知られる米著名投資家のウォーレン・バフェット氏は「私が若い頃とは比べものにならないほど市場はカジノ的な振る舞いを見せる」と、米国内外の株式相場の高騰を投機的な動きだと憂えた。

限られた銘柄へのマネーの集中は世界的な現象でもある。米国指数において時価総額上位10銘柄が占める割合は30%。欧州（ユーロ圏）で33%、日本でも24%台と高水準だ。確かに偏った動きかもしれないが、OpenAIが開発したChatGPTを始め、生成AIを利用したサービスは今後、世の中を変える革新的なものになるだろう。だから買われ過ぎという

AIメカテックの日足チャート

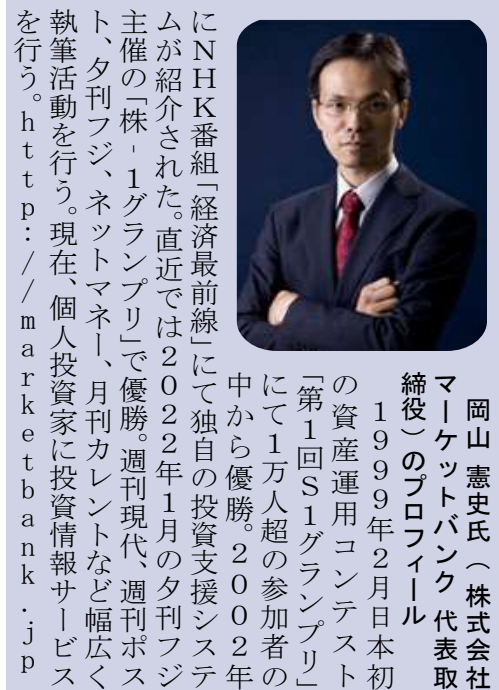


判断は現時点ではできない。また、日本では東証プライム上場企業の24年3月期の合計純利益は前期比13%増え、3年続けて最高になる見通しだ。今期の純利益は40.5兆円で、現在の日経平均のPE

R（株価収益率）は16.2倍である。来期は9%増の44.1兆円、再来期は8%増の47.5兆円となっている。これをあてはめると日経平均4万円のPERは14~15倍程度に下がる。今の株価はバブルでないことがわかる。2月8日の東証グロース市場250指数は784.78ポイントまで上昇し、2023年8月以来およそ7カ月ぶりの高値をつけた。中小型株や新規株式公開（IPO）関連にも資金が入り始めている。

プライム市場から投資家のマネーが出遅れていた新興市場にも流入している。余裕ができた資金が人工知能（AI）や半導体関連株などのテーマに近いグロース（成長）株に向かっている。新興市場の上昇が続いた後は再度、プライム市場に資金が流れるだろう。まだまだ、好循環は続くことになりそうだ。

潮流銘柄はVRAIN Solution（135A）、フォーサイド（2330）、AIメカテック（6227）。



岡山憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

グロース250は7カ月ぶり高値



敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



半導体関連株が日経平均を牽引

先週の日経平均は前週末比約812円高と5週連続陽線となった。週前半は前週の高値更新による利食い売りに押され、乱高下を繰り返していた。しかし、29日の米国で1月個人消費支出（PCE）価格指数がインフレ長期化に対する警戒感を和らげるとナスダック指数が約2年3カ月ぶりに史上最高値を

更新。すると再び半導体関連株が買われ急伸、4万円台まで後10円のところまで買われた。バブル後の高値更新時や今回の4万円台乗せなど節目の水準では一旦止まるが、売りを誘ってからの買戻しを誘い、大幅上昇というパターンが定着してきているように思われる。今週はメジャーSQQ週である。1月、2月ともSQQ週に大きく上昇してきているので今回も大きく動く可能性は高い。ただ、冷静に見ると日経平均の騰落レシオは107%、これだけ上昇しても過度な過熱感を示さないのは上昇しているのが一部の銘柄に集中しているというところだ。金曜日は744

エヌビディアの日足チャート



円高したが、騰落数を見ると値上がり805銘柄、値下がり805銘柄と全面高にはなっていない。半導体関連株が日経平均を牽引しているのは間違いないため、これに大きく影響する米エヌビディア株の動きには要注意である。また、今回の上昇は昨年6月の上昇時とよく比較される。昨年3月16日の安値（2万6632円）から6月19日の高値（3万3772円）まで3カ月で約7140円（26.8%）上昇した。今回は1月4日の安値（3万2693円）から3月1日の高値（3万9990円）まで7297円（22.3%）上昇している。テクニカル的にも13週移動平均線乖離率やRSIも昨年6月の高値を付けた状況に迫ってきている。上昇幅では昨年を上昇幅で超えているが、昨年の上昇率を当てはめると4万1454円となり、まだ上値余地はありそうだ。昨年は上昇3カ月で調整、その後下落し、3カ月で下げ止まりもみ合い後半

上昇相場となった。相場の格言としてある「小回り3カ月」という日柄サイクルに当てはまっている。今回の上昇もそのようになるかわからないが、一旦は調整が必要な域に入っているように思われる。ただ、相場は上昇時も下落時も「行き過ぎる」動きをするものである。空売りは慎重にチャートが崩れてからでも十分であろう。反転のきっかけがSQQ通過後のタイミングなのか、18日〜19日に開催される日銀金融政策決定会合による金融政策変更になるのかわからないが、3月相場は波乱含みの展開になると予想する。今週のレンジは3万9500円〜4万0800円を想定する。（ハチロク）

小回り3カ月調整は近い？

3月相場は波乱含み

円高したが、騰落数を見ると値上がり805銘柄、値下がり805銘柄と全面高にはなっていない。半導体関連株が日経平均を牽引しているのは間違いないため、これに大きく影響する米エヌビディア株の動きには要注意である。また、今回の上昇は昨年6月の上昇時とよく比較される。昨年3月16日の安値（2万6632円）から6月19日の高値（3万3772円）まで3カ月で約7140円（26.8%）上昇した。今回は1月4日の安値（3万2693円）から3月1日の高値（3万9990円）まで7297円（22.3%）上昇している。テクニカル的にも13週移動平均線乖離率やRSIも昨年6月の高値を付けた状況に迫ってきている。上昇幅では昨年を上昇幅で超えているが、昨年の上昇率を当てはめると4万1454円となり、まだ上値余地はありそうだ。昨年は上昇3カ月で調整、その後下落し、3カ月で下げ止まりもみ合い後半

日経225先物日足チャート



相場見通し

記者の視点

先物4万円乗せに追随

3月は権利配当取り下支え

3月1日の東京市場で日経平均は大幅に3日ぶり反発となり、4万円に迫る動きとなった。一週間前となる2月22日には、強気と見られていた市場予想を更に上回る好決算を受けてエヌビディア株の時価総額が初めて2兆ドルを突破、これを受けて半導体製造装置などの主力買いから昭和のバブル期につけた史上最高値3万8915円87銭を更新し、なっている。追いついた。金融経後には滋賀県の高田銀懇談会での高田日銀審議委員の発言から円高に反応したことを受けて

3万9000円割れまで売られたが、1月米個人消費支出（PCE）物価指数が2021年2月以降の低さとなったことを受けて米国で再度早期利下げ期待が再燃したことから、米国株高からの1日の一段高に繋がった。驚異的な上昇ペースからスピード調整が毎度懸念されるが、これまでの低迷期と異なり、買い意欲は強く、割り切れる投資家は流れに乗るしかない。1日は15%の現物市場引け後に先物の数カ月は第2金曜日のS&P500に接近するにつれ上昇スライドが加速しており、その乗るなら4%からなる波及に期待したい。

3月の週は現物市場でも4万円の週は可能性が高い。今週は米国で5日に2月ISM非製造業指数、8日に2月雇用統計など経済指標が控える。これに加えて6日と7日にパウエルFRB議長との議会証言が控えており、その発言内容次第でB議長の議定内容が控えており、その発言内容次第でB議長の議定内容が控えており、その発言内容次第でB議長の議定内容が控えて

当面のスケジュール

- 4日 10-12月期法人企業統計
2月マネタリーベース
- 5日 2月東京都区部消費者物価
中国2月コンポジットPMI
中国、全国人民代表大会開幕
米2月ISM非製造業景況指数
スーパーチューズデー
- 6日 米2月ADP雇用統計
パウエルFRB 議長、下院金融サービス委員会で半期に一度の金融政策報告書について証言
- 7日 1月毎月勤労統計調
中国2月貿易収支
ECB定例理事会(ラガルド 総裁会見)
米1月貿易収支
- 8日 1月家計調査
2月景気ウォッチャー調査
1月景気動向指数
オプションSQ
米2月雇用統計
- 9日 宇宙事業会社「スペースワン」が民間初のロケット発射場から初号機打ち上げ予定
中国2月生産者物価、中国2月消費者物価
- 11日 2月マネーストック
10-12月期GDP改定値
- 12日 2月国内企業物価
1-3月期法人企業景気予測調査
米2月消費者物価
- 14日 米2月小売売上高、米2月生産者物価
- 15日 1月第三次産業活動指
米3月NY連銀製造業景気指数
米2月鋁工業生産・設備稼働率

編集後記

花粉症の人には朗報。花粉飛散量が従来品種の半分以下という「エリート杉」の苗木の出荷が始まった。優れた精英樹を人工交配したハイブリッド品種で、成長スピードも1.5倍と早く、人手不足に苦しむ林業従事者の負担軽減や生産量増加効果に加え、木の二酸化炭素吸収量は成長速度に比例することから、脱炭素の切り札としても期待されるという。

エヌビディアの予想以上の好決算、米PCE伸び鈍化と朗報相次ぐ東京市場だが、4万円大台乗せから期待したい。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。